

基本理念	
前回案	今回修正案
<p>仙台城跡のさまざまな価値について、市民や観光客が親しみ学び正しく理解するように、発掘調査や史料調査などの成果に基づき、城郭のかつての姿を尊重した歴史的・文化的空間として整備します。</p> <p>仙台城跡の価値と魅力を伝えることにより、市民の城としての意識を高め、仙台のまちづくりや交流人口の拡大に寄与します。</p>	<p>継続的な調査・研究の成果に基づき、城郭のかつての姿を尊重した歴史的・文化的空間として保存整備することで、来訪者が安全かつ快適に仙台城跡を楽しみ、その価値を学び理解を深めるよう努めます。</p> <p>仙台城跡の魅力や面白さを積極的に発信し、市民の城としての意識を高めるとともに、仙台を象徴する観光資源として交流人口の拡大、地域の活性化に寄与します。</p>
基本方針	
<p>管理・被災対応</p> <p>1 史跡を構成する遺構等についての現状を把握するとともに、日常的な維持管理に努め、自然災害等により被災した場合は速やかに修復します。</p>	<p>調査と遺構の保存・保護による次世代への歴史資産の継承</p> <p>① 発掘調査や史料調査などの各種調査および研究の成果に基づき、仙台城跡の本質的価値である石垣等の遺構を適切に保存し、次世代への確実な継承を図ります。</p> <p>植生を適切に管理し、遺構等の毀損を防止し史跡の価値を守るよう努めます。</p>
<p>整備ゾーン・回遊性</p> <p>2 仙台城跡全体を、歴史や地形、歴史遺産及び自然遺産の状況、現在の土地利用状況等を勘案して、いくつかの整備ゾーンに分割して整備し、訪れる人が各々の興味関心に応じて複数の拠点を回遊することができるようにします。</p>	<p>城郭らしい景観の顕在化および眺望の確保</p> <p>② 樹木の成長により、史跡周辺からの歴史的景観や城内の登城景観、本来的な眺望が堪能できない状況であることから、植生の現状把握と維持管理方針の検討を行い、仙台のシンボルとしての魅力を高めるため、適切な景観形成を図ります。</p> <p>なお、景観の維持管理においては、仙台市街地の借景としての自然環境との調和を図ります。</p>
<p>観光・まちづくり</p> <p>3 史跡を観光資源として活かすことにより、交流を生み、地域経済を活性化し、まちづくりへつなげるよう努めます。</p>	<p>防災に配慮した安全・安心・快適な城内環境の実現</p> <p>③ 防災上の観点から史跡を構成する遺構等について、現状の把握と記録化を行うとともに日常的な維持管理に努め、来訪者が安全・安心・快適に城内を散策できるよう整備します。</p> <p>枯死等により来訪者の安全に影響を及ぼすとみられる樹木については、関係部局と連携し適切に対処します。</p> <p>自然災害等により被災した場合は速やかに修復します。</p>
<p>ユニバーサルデザイン</p> <p>4 遺構の表現以外の諸施設については、来訪者が快適に史跡を見学できるようユニバーサルデザインに配慮したものとします。</p>	<p>来訪者による回遊性の向上</p> <p>④ 仙台城跡全体を、歴史や地形、歴史資産および自然遺産の状況、現在の土地利用状況等を勘案して、いくつかの整備ゾーンに分割し、それらの特性に応じた整備を行います。来訪者が各々の興味関心に応じて複数の拠点を回遊することができるようにします。</p>
<p>多言語化</p> <p>5 案内・解説等については、多言語化に努めます。</p>	<p>多様な来訪者への適切な対応</p> <p>⑤ 多様な来訪者が快適に史跡を見学できるよう、遺構の表現以外の諸施設についてはユニバーサルデザインに配慮し、また案内・解説等については、多言語化に努めます。</p>
<p>歴史資産の面的活用</p> <p>6 仙台城跡に関連する他の歴史資産との関連を考慮した案内・解説等に努めます。</p>	<p>史跡情報の積極的公開・活用・宣伝</p> <p>⑥ 発掘調査等の各種調査・研究成果の発信や、発掘調査現場の公開・見学会の実施、市民向け講座の開催等により、仙台城の魅力を広く公開・宣伝し積極的な史跡の活用を図ります。</p>
	<p>市民協働・地域との連携の推進</p> <p>⑦ 様々な情報発信により「市民の城」としての意識を醸成するとともに、市民協働による史跡の保存・活用の在り方について検討します。</p> <p>地域のガイドボランティア等とも連携し、仙台城跡に限らず、関連する他の歴史資産と関連付けた案内・解説に努めます。</p>